

来賓祝辞

本日ここに1市6町の合併調印式を迎えたことを、地元の人間の一人として大変お喜びを申し上げたいと思います。私は牡鹿半島の牡鹿町で18代続いた家の息子です。しかし、私は、私の家族も父親もそうでありましたが、昭和のはじめから全部石巻の学校で学ぶことができました。ここに居られる皆さんの多くも私と同じような経験や体験をなさっている家族だと思えます。合併の話が全国的に国の大きな政治課題となったのは5年程前でございます。その後、合併一括法ができて、今日、全国的に、西のほうはかなり実は進んでまして、東のほうは遅れているということで、東北とそして関東地域を中心に合併の作業が行われておりましたけれども、実はそのスタートから私は総務省の方から言われたのは、安住先生の地元の石巻地方は、全国屈指の同一性の高い地域なので合併には非常に適した地域だと思えますということをお聞きしたことがあって、言われてみればそうだなあと思っておりました。私にとっても皆さんにとっても、多分、石巻地方ということではまったく違和感がない。まあ、今日は6町でございますけれども、本当は1市9町で24万人の市を作ればベストだったなあと思えますけれども、しかし、これから、須田県議も居りますけど女川にもぜひ入ってもらって、まず女川を入れて、そして、渥美県議も居りますけど、東松島にも何とか一緒になってもらって、土井喜美夫市長さんにもぜひ頑張ってくださいね、1市9町の合併をぜひ作り上げていただきたいと思っております。私も一生懸命協力したいと思います。

日本、いや、世界有数の三陸の漁場を抱えて、そしてまた、日本有数の北上川の肥沃な大地を抱えて、農林水産業の生産地としては、非常に完成度の高い地域が一つの行政地になります。さらに、大きな企業が進出した石巻港は、仙台に比べても負けないくらい工業の栄える拠点港になる可能性が高うございます。私たちはこうした利便性を利用して17万人の市を、仙台に負けないくらい豊かにしていかなければならない責任があると思っております。教育の格差が残念ながらありますから、教育の格差を縮めてですね、私たち地域で生まれ育った子どもは、仙台や東京の子どもに負けないくらいの教育レベルに私は何とかこの子どもたちを教育したいと思います。農業や漁業で生きていく人たちに生産の基盤を与えるのもこの地域の仕事ではないでしょうか。やることはたくさんありますが、これまでと違って大きな大きな希望が私はこの町にはあると思っております。どうぞ皆さん、これからまた大変な山を越えなければならないと思えますけれども、私もそしてこれからはこの地域に住むであろう皆さまも、この石巻の発展のために共に、大きく手に手を取って、私たちの大いなる古里石巻を、さらに21世紀に向けてですね、発展をするために共に頑張っていきたいと思っております。

今日の合併調印式、土井市長さんをはじめ、管内の首長さん、そして市・町役場の関係された皆さん、この協議にずっと関わってきた皆さん、本当にご苦労様でございました。来年の4月1日がすばらしいスタートの日になりますようご祈念を申し上げまして、一言のお祝いのご挨拶に代えさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。